

ポリマルチ栽培の春作ジャガイモにおけるヨトウガの早期多発生

井 上 平

(長崎県総合農林試験場)

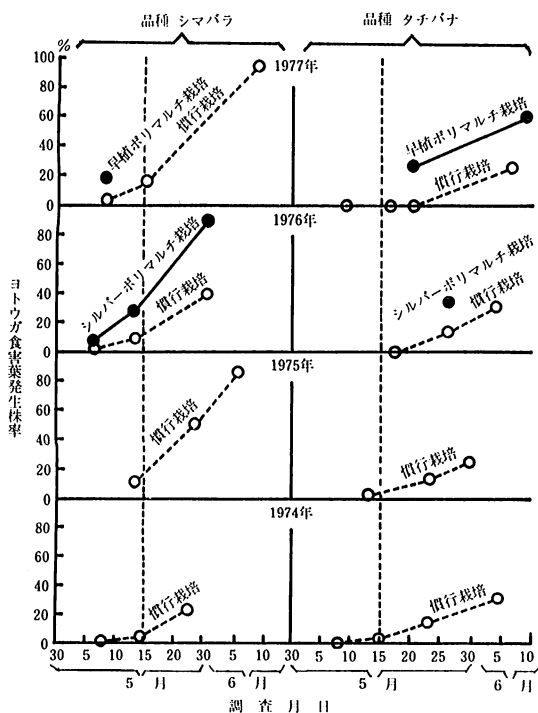
1976年より、アブラムシ類によるウイルス病感染の軽減をねらいとして、春作ジャガイモのポリマルチ栽培を始めたところ、早い時期からヨトウガの加害を受けることを観察したので報告する。

材料及び方法

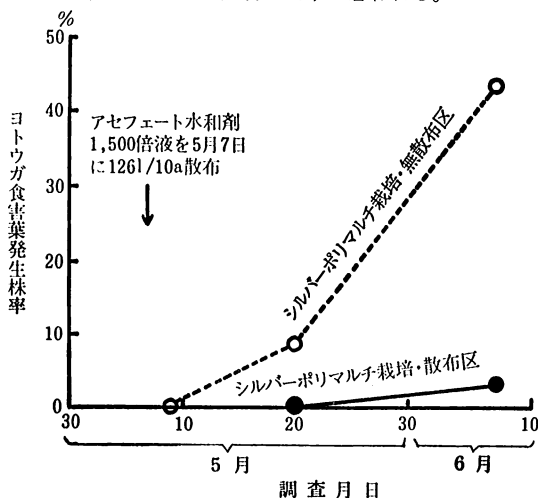
1976年は、2月25日植付、3月1日シルバーポリフィルムマルチのジャガイモ品種シマバラ及びタチバナで調査した。シマバラでは透明のポリフィルムマルチのものについても調査した。1977年は、1月20日植付(早植)、1月31日ポリマルチのシマバラ、2月7日植付(早植)、2月22日ポリマルチ及び2月24日植付、3月1日シルバーポリマルチのタチバナでそれぞれ調査した。対照慣行栽培のもの植付は、両品種ともに2月24日であった。ヨトウガの発生量は、1区30m²3区の全面積全株について調査した。

結果及び考察

ヨトウガ食害葉発生株率の時期的推移は、第1図及び第2図のとおりである。第1図から同時に植付けても、萌芽がやや早く、初期生育もよいシマバラは、タチバナに比べて、慣行栽培の場合でも、ヨトウガの発生時期が早く、発生量も多い傾向が従来からみられていた。ポリマルチを行って、萌芽時期や初期生育を早めると、両品種揃って、ヨトウガの発生時期が早まったが、その早まり方は、初期生育のよいもの程著しいように観察された。1976年のシマバラでの調査で、ポリマルチの方が、シルバーポリマルチより、ヨトウガの発生がやや早かった(数値省略)が、これは、ポリマルチのジャガイモの萌芽と初期生育がやや早かったことによると考えられた。シルバーポリマルチによって、ヨトウガの発生が早まり、発生量も多くなる傾向は、2年共通してみられた(第2図も参照)。したがって、シルバーポリマルチがヨトウガを忌避させる効果を示すことはないと思われる。1977年のシルバーポリマルチ区へ、慣行栽培のものに対する適期より、1週間ほど早い5月7日に1回殺虫剤散布を行ってよい防除効果を得られた(第2図)。ヨトウガに対する殺虫剤の散布適期は、ジャガイモの生育状態に応じて決定することが大切のように思われる。



第1図 春作2期作ジャガイモの品種シマバラ及びタチバナにおけるヨトウガの発生消長、とくにポリマルチ栽培との関係(春作)



第2図 春作ジャガイモをシルバーポリマルチ栽培した場合のヨトウガに対するアセフェート水和剤1回散布の効果(1977年、品種タチバナ)